



7月16日

2019年

(令和元年)

火曜日

第19363号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

鉄鋼新聞

Japan Metal Daily

名北工業 STC 炉 増強

CH 鋼線需要増に対応

都市ガス転換で操業安定化

中部地区CH鋼線メーカーの名北工業(本社・岐阜県美濃加茂市、社長・福西康和氏)は、熱処理能力を拡大して需要対応力を強化する。新型のSTC炉を導入し、今秋をめどに

中部地区CH鋼線メーカーの名北工業(本社・岐阜県美濃加茂市、社長・福西康和氏)は、熱処理能力を拡大して需要対応力を強化する。新型のSTC炉を導入し、今秋をめどに

本稼働をスタートする。熱処理炉増設を機に、インフラを整備した上で都市ガスの使用も開始。さらなる安定操業、安定供給体制の構築を目指す。

同社は神戸製鋼所製の母材を使用し、自動車関連ユーザー向けのメインとする地区大手の特殊鋼線材加工メーカー。「4S1K」活動に基づく高度な品質意識があった。20トンのSTC炉11基を

2017年頃からフル操業が継続し、稼働日数が多い月などで熱処理能力が不足するケースがあった。20トンのSTC炉11基を

働へ移行する計画だ。10年ぶりの熱処理炉増設となる。

母材置場へ設置するため在庫能力が下振れるが、「在庫抑制を図り、工程間の製品移動を工夫してジャスト

ガスの使用も開始した。現在プロパンガスを併用しているが、将来的に都市ガスへ完全に切り替えて操業のさらなる安定化、BCP強化を狙う。投資額は

約1億5千万円。

福西社長は「先行き需要が不透明な中、支給材・自給材の価格差や諸コスト上昇など難しい経営環境が続く。

必要な投資は積極的に行い、技術開発や改善活動により生産効率を高め、お客さまのニーズに応え続けていきたい」と語った。



増設した大同特殊鋼製STC炉

いへのさらなる対応力の24トンのプレミアムSTCアップ、数量増を狙った。C炉で、投資金額は約3億円。今月末に据え付けを完了、夏季休業するのは、大同特殊鋼期間明けから部分稼働製「DINCS」搭載をはじめ、10月に本稼働

は「SPCCの協業を」の1